

### (3) 酸性雨

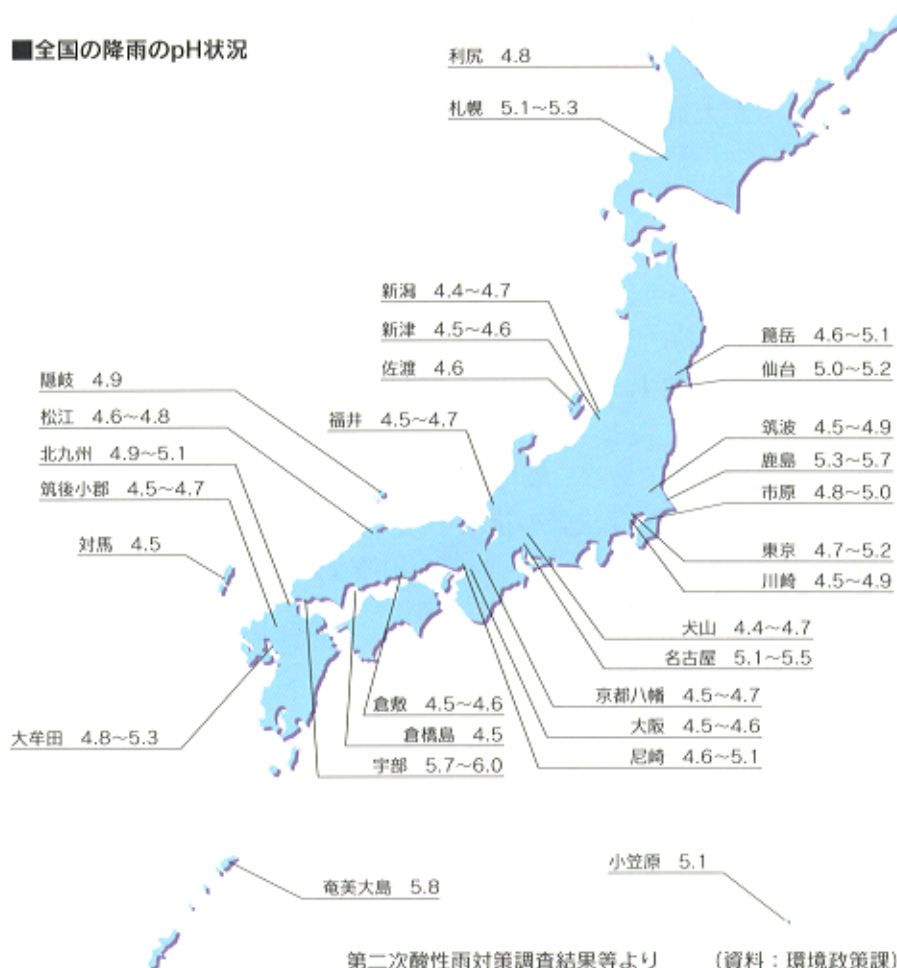
樹木被害をもたらすとして、とくに欧米などで問題化している酸性雨の原因物質は、大気中の硫黄酸化物や窒素酸化物と考えられていますが、その生成メカニズムや汚染物質の広域的な移流、拡散の実態などについては、まだ未解明な部分が多く残されています。

こうした酸性雨問題について、県では、福井市、敦賀市、勝山市、越前町の4地点で降雨の通年調査を実施しています。

その結果、降雨の年平均pH<sup>\*</sup>は全国とほぼ同一レベルにあるものの、その数値は4.5～4.7の範囲にあって酸性化しています。

今のところ、植物に対する直接的な可視被害は確認されていませんが、今後、土壌に対して酸性降下物の影響が及ぶ可能性も指摘されています。

■全国の降雨のpH状況



## 第4 環境に対する県民意識

県では、平成7年度に、「環境」をテーマに、県政広聴員等1,000名を対象としたアンケートを実施しました。

(※1) pH：水などの酸性の強さを表す数値であり、中性のときのpHは7。数値が小さくなるほど酸性が強くなることを意味する。なお、大気汚染が全くない場合の降雨の理論上のpHは5.6とされている。